

令和 7 年 3 月 1 4 日

国立大学法人福井大学長
上田 孝典 殿

国立大学法人福井大学
学長選考・監察会議議長
川 田 達 男

令和 5 年度及び 6 年度業務執行状況の確認結果について（通知）

国立大学法人福井大学学長選考・監察会議規則第 4 条に基づき、令和 5 年度及び 6 年度における業務執行状況の確認を行いましたので、結果を下記の通り通知いたします。

記

1. 確認方法について

第 1 5 回学長選考・監察会議（令和 7 年 3 月 1 4 日開催）において、以下の資料及び学長へのヒアリング並びに監事からの意見聴取に基づき、確認を行った。

- ・再任選考時のこれまでの総括及び所信表明資料
- ・令和 6 年度中期目標・中期計画の進捗に係る自己点検・評価報告書（評価対象：令和 5 年度）
- ・令和 5 事業年度監査報告書
- ・ヒアリング時のプレゼン資料

2. 確認結果について

- （1）学長のリーダーシップにより、令和 5 年度及び 6 年度における大学運営は非常に安定し、かつ前進がみられている。

また、学長就任後の 6 年間に於いて修めた数々の業績は、国立大学法人評価委員会から高い評価を受ける等、福井大学の発展に大きく寄与したものと見える。

- （2）特に、教育面では、令和 6 年度からの 2 年間で工学研究科博士前期課程の定員を 30 名増加させるとともに、令和 7 年 4 月から医学系研究科看護学専攻博士後期課程の設置が決定し、大学院教育体制を強化した。また、研究面では、各種競争的研究資金を獲得して、地元産業である繊維分野の研究開発や産学融合拠点の整備等により、大学のみならず地域のイノベーション創出力を強化した。さらに、コロナ禍により停滞した国際化を立て直すため、既存組織を母体に「グローバル・エンゲージメント推進本部」を設置し、外国人留学生の受入から国内定着及びグローバル・リーダー人材の輩出までを一貫して行う人材の

育成を推進した。

一方、卒業生を中心とした様々なステークホルダーとの連携を一層強化する「福井大学校友会」の設立を大学統合・法人化から20年となる節目に実現させたことは、福井大学が地域活性化の中核拠点として存続し続け、地域の課題解決及び持続的な発展に大いに貢献することが期待される業績である。

- (3) 第4期中期目標・中期計画の達成状況については、一部、目標に達していない評価指標があるものの、教職協働によるプロジェクトチームを発足する等、目標達成に向け適切に対応している。